

## 1 管理状況

### ○ 適切な管理の履行

#### ・ 人員配置

施設内に管理運営、警備、清掃、設備を担うスタッフを適切に配置し、お客様対応、施設の不具合などに適切かつ迅速に対応。

#### ・ 人材育成の取組

東京2020大会開催に備えたサイバーセキュリティ研修や、法令順守のためのコンプライアンス研修、人材育成研修などを適宜実施。また、コロナ感染症まん延防止対策として検疫感染症措置訓練への参加及び安全性の観点から自衛消防技術認定講習の受講、上級救命認定の資格を取得。

#### ・ 施設の維持管理、使用許可、補修、修繕等

東京都関係者と密な連絡、調整、連携し、補修・修繕を実施。

日常点検に加え、社内他部署の類似施設管理者等による第三者点検など、多角的な視点で点検を行った。特に、各施設ともに施設の老朽化が進んでいるため予防保全的な補修を積極的に実施した他、年間執行見込の早期見定め等により、予算を確保し当初計画を上回る補修を実施した。



#### ・ 警備体制

東京2020大会を見据え、国際大会の警備経験のある事業者による臨時警備を実施。

緊急事態宣言中には、屋外に活動の場を求める利用者が、施設に多く集まったため、警備の配置計画を変更し、立哨警備を立てるなど、施設の安全性の確保、感染症まん延防止を行った。



#### ・ 施設の清掃等

日常、定期清掃を計画的に着実に実施。

施設内でのコロナ感染症まん延を防止するため、消毒液等が手薄な時期から先手を打って消毒液を確保し、消毒清掃を実施。

汚水管の高圧洗浄や石壁の洗浄など、特別清掃も実施し、施設の快適性の向上を図った。



## ○ 安全性の確保

### ・ 防災・防犯体制強化に向けた取組

- ①発災時に、迅速かつ適切に対応できるよう緊急時アクションマニュアルを作成し、適宜見直しを実施。
- ②デジタルサイネージを活用し、緊急時の避難誘導等を多言語表示
- ③自主的に災害備蓄品を配備。  
適宜更新を行い、訓練においても確認を実施
- ④上級救命技能認定取得(再掲)
- ⑤自衛消防技術認定取得(再掲)
- ⑥地元警察署、東京2020大会組織委員会、都関係部局等で構成される「東京2020大会延期に伴う選手村協議会」に主体的に参画し、関係者との連携を強化。  
各施設ごとに異なる警備チーム間での連絡体制を構築した。  
以上により、非常時・緊急時に備えている。



### ・ 緊急時対策

- ①巡回チェックシートを作成し、管理スタッフ、技術スタッフ、警備員による施設点検を実施し施設の安全確保に努めた。
- ②類似施設管理部署と共通点検マニュアル作成し、改善状況の確認や不具合箇所の早期発見につなげた。
- ③感染症まん延防止対策として、嘔吐物対処キットを配備、専門家による講習を実施。
- ④自衛消防技術認定訓練取得(再掲)
- ⑤自衛消防訓練を施設管理スタッフ全員及び施設使用者の参加により実施。



### ・ 事故等への対応

- ①緊急時アクションマニュアル、救急ファイルの整備
- ②緊急時アクションマニュアル実証訓練の実施
- ③上級救命技能認定取得(再掲)
- ④AEDなどの救急用品・器具の点検等
- ⑤事故防止対策として、これまで培ってきた  
ふ頭管理のノウハウを活かし、  
専門的な観点により空洞化調査・修繕を実施
- ⑥類似施設の事故を参考に、施設点検を実施。点字ブロックの延長や段差部の明示化を実施。



## ○ 法令等の遵守

- ・サイバーセキュリティ研修、コンプライアンス研修等を実施(再掲)
- ・ネットワークシステムのクラウド化により情報セキュリティ対策を強化

## 2 事業効果

### ○ 事業の取組

#### ・ 自主事業の取組

新型コロナウイルス感染症の拡大防止に留意し、フォトコンテストを実施



#### ・ 利用者サービスの向上に向けた取り組み

- ①(有明)全21枚のサインの全面リニューアルを実施  
多言語・ユニバーサルデザイン標記の案内を実現。
- ②(有明)現行バリアフリー基準に合致するよう  
既存不適格となっていた点字ブロックの増設を実施。
- ③利用者の利便性向上のため、キッズコーナー、  
デジタルサイネージを設置するほか、wifiを提供
- ④施設の魅力向上のため、感染症対策に留意し季節感を意識した  
装飾を実施したほか、望遠鏡を設置



- ⑤検索キーワードの設定、見直し等よりネット上の露出を強化(検索数前年比4,603%)
- ⑥不定期航路への施設開放により、施設利用者にも変化があったため、これに合わせ、利用基準を見直すなど、適宜・適切かつ柔軟に快適な施設利用に努めた。
- ⑦感染症対策で施設閉鎖を実施するなか、施設を訪問しなくても、施設に親しみを持っていただけるようなツイートを発信。

### ○ 利用の状況

- ・ 乗降客数 3 施設計 3,586名
- ・ 撮影合計 3 施設計 156件

### ○ 利用者の反応 (アンケートの実施)

ターミナル全般に対する満足度について、満足・やや満足が95%となり、高い評価を得ている。

### ○ 行政目的の達成

- ・ 都及び関係機関等との連携 (新型コロナウイルス関係を除く。)

- ① 地元警察署、東京2020大会組織委員会、都関係部局等で構成される「東京2020大会延期に伴う選手村協議会」に主体的に参画し、関係者との連携を強化。各施設ごとに異なる警備チーム間での連絡体制を構築した。



- ② 緊急事態宣言下、近隣でイベントが計画されている情報を入手。至急都に情報共有、報告のうえ、地元警察や大会組織委員会にも情報提供。関係各所と連携して対応を行った。平常時より、都等と連携・連絡を密にしてきたため、迅速・適切に判断・行動をすることができ、事故防止につなげることができた

・東京2020大会への寄与

- ① 大会関係者の視察、現場調査が多数実施されたほか、選手村の一部として晴海客船ターミナルが利用されることになっているため、工事等が実施された。複数者関係者が存在したため、柔軟な対応・ルールの見直しなどにより、安全な利用・施設機能の維持のに努めた。
- ② 大会組織委員会、都と定例会を実施し、管理者のノウハウを活かし、課題解決に寄与した。

・都の実施策への協力

- ① 都実施の社会科見学船事業に合わせ、船舶運航者・案内業務実施者と連携し、感染防止対策を実施。動線の見直しや警備員・清掃スタッフの配置計画の見直しなどの協力を行った。
- ② 新たに、青海栈橋が舟運に解放されたため、都や運営事業者とルールや安全管理について調整し、安全・確実な受け入れに寄与した。
- ③ 都が受け入れを決定した、環境普及のために寄港した長期滞在の船舶へのサポートを実施。
- ④ 施設の老朽化や東京2020大会の受入れに向け、施設整理を積極的に行った。特に、ボーディングブリッジの解体に際しては、解体工事時に不具合が発生したが、これまでの経験を活かし緊急修繕を実施、確実な解体の施工に寄与した。



・新型コロナウイルス感染拡大防止に向けた取組

- ① 3密の回避

緊急事態宣言下で臨港広場等に多くの人出があったため、3密回避対策を実施。警備員の立哨を実施したほか、臨時警備員も配置、場内放送・HPでの呼びかけを実施した。加えて、日ごろの連携が功を奏し、地元警察の協力を得られ、警察官による巡回警備回数も増加。

- ② まん延防止策の実施

全入口への消毒液の設置、換気の徹底、動線の整理、注意喚起、消毒清掃などにより、安心して安全な施設の提供に努めた。

- ③ 緊急時対策

吐しゃ物処理対策として、キットを配備するほか、専門家による講習を実施。委託スタッフ含め、全スタッフが受講することで体制を整備。

- ※ 感染者発生時の消毒清掃に対応する会社が少なく、緊急清掃対応に苦慮する事例が多いとの報告を受け、館内で感染者が発生した場合に備え、あらかじめ指定会社を選定し、万が一の事態に迅速・確実に対応できる体制を整えた。このことから、都から消毒清掃が可能な会社の照会を受けた際も指定 会社を派遣するなど管理施設外の対応にも寄与した。



3 収支状況 (単位：千円)

項目	金額 (税込)
収入 指定管理料	302,705
支出 管理運営費	287,219
収支差	15,486